

軽井沢

美しい村

KARUIZAWA BEAUTIFUL VILLAGE

軽井沢観光協会広報誌  
グリーン・ブリーズ

# GREEN BREEZE

2021.  
August  
No. 50

記念号

Anniversary



ようこそ標高1,000mの  
ウェルネスリゾート軽井沢へ



Karuzawa  
Tourist  
Association

一般社団法人  
軽井沢観光協会  
<https://karuzawa-kankokyokai.jp>



<https://www.facebook.com/karuzawa.info/>



<https://www.instagram.com/karuzawa.info/>



[https://twitter.com/karuzawa\\_kta](https://twitter.com/karuzawa_kta)

# 軽井沢観光を未来につなぐ広報誌 「軽井沢グリーン・ブリーズ 50号」発刊によせて

「グリーン・ブリーズ」は50号を迎える事となりました。

軽井沢の観光ビジョンを構築するにあたり、たくさんの皆様のお知恵が結集されつくられてきました。

軽井沢観光協会にご尽力いただいている方々へ感謝を申し上げます。

今後も未来につなぐ広報誌としてお届けしていく所存です。

広報委員会グリーン・ブリーズ編集室一同

年 度	観光協会の関連事業
1996(平成8年度)	機関誌「グリーン・ブリーズ」発刊
1998(平成10年度)	氷まつりを改称し「第1回ウインターフェスティバル」開催
1999(平成11年度)	<b>〈会長 荒井 宏〉</b> ○観光ビジョンの策定(美しい村) ○ホームページの普及・充実 ○ホスピタリティの向上 ○緑化運動の推進 ○姉妹都市ウイスラー市との交流 ○歴史の道整備事業 ○ホスピタリティ講演会の開催 ○マナー講習会の開催 ○観光視察会の開催 ○委員会の再編成 ○観光循環バスの運営 ○軽井沢・中軽両案内所の運営 ○観光会館の運営 ○観光ボランティアの運営 ○若葉まつり・ウインターフェスティバル等継続事業の実施
2000(平成12年度)	8月1日 ショー祭2000 開催(実行委員会に参加)以降、毎年開催
2003(平成15年度)	4月 観光協会事務局の独立(旧駅舎記念館へ移転)
2005(平成17年度)	9月 「美しい村」商標登録 ○新サイクリング看板設置(デザインを担当)
2006(平成18年度)	○台湾にて初の商談会・旅行社訪問 ○「歴史の道」道標設置
2007(平成19年度)	<b>〈会長 藤巻 進〉</b> ○滞在型リゾートの推進(インバウンドの推進 エンジョイクラブの推進) ○オープンガーデン事業開始 ○観光商談会(香港・上海)
2008(平成20年度)	○台湾で商談会・旅行社訪問 ○ウエディングの推進 6月 国際景観会議の開催 ○観光商談会(香港)
2009(平成21年度)	○観光商談会(台湾・香港) 4月 軽井沢ウエディング協会設立 ○金沢キャンペーン(軽井沢ウエディング協会) ○姉妹都市提携10周年記念ウイスラー写真展開催 ○軽井沢検定の実施 ○中山道の研究 ○社団法人取得 11月17日 創立60周年記念式典開催
2010(平成22年度)	10月 信州デスティネーションキャンペーン ○公開挙式 in 旧三笠ホテル(軽井沢ウエディング協会)
2011(平成23年度)	<b>〈会長 土屋 芳春〉</b> ○滞在型リゾートへの進化 ○軽井沢リゾート会議都市推進協議会(KRCC)発足
2012(平成24年度)	3月 軽井沢町観光振興調査研究 軽井沢リゾートビジョン重点分野に即した事業推進 4月 文化・着地型観光商品・インバウンド誘客等を重点事業

年 度	観光協会の関連事業
2013(平成25年度)	4月 観光案内所 くつかけテラス内へ移転 5月 公式サイトリニューアル 6月 「軽井沢フリーパス」試行(しなの鉄道+循環バスセット)
2014(平成26年度)	3月 海外MICE等視察(ダボス・チューリッヒ・ミラノ) 国内先進地視察&広域連携商談会 4月 組織改編(未来構想・広報・事業・市場創造・インバウンド部会) ニューツーリズム推進部会発足 6月 世界アマチュアゴルフ選手権大会協力
2015(平成27年度)	3月 北陸新幹線金沢延伸 軽井沢駅構内公開挙式 4月 軽井沢観光協会事務局 軽井沢町観光振興センター内へ移転 インバウンド向けメディア、旅行会社招聘(10カ国33社) 軽井沢観光戦略会議発足(軽井沢版DMOの研究)
2016(平成28年度)	1月 第1回軽井沢WEB検定実施 4月 軽井沢観光ビジョン提唱 『美しい村(心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する)』 6月 軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト設立 軽井沢観光協会賛助会員募集開始
2017(平成29年度)	4月 軽井沢ウェルネス・ツーリズム推進宣言採択 インバウンド部会を委員会に移行(30年度誘客企画委員会名称変更) 組織改編・専門性強化(5委員会、1室) ○第1回「ウエディングアワード」開催 ○協会収益番組【ホリデープログラム ウェルネスリゾート軽井沢】祝日放送開始 ○エリアマップ「ほっちNAVi」制作
2018(平成30年度)	2月 SHINANO RAILWAY BANZAI 2-DAY PASS誘客企画委員会考察、 しなの鉄道株式会社より発売 ○インバウンド事業強化 (台湾・香港・タイ、G7を契機に欧米へ拡大) 6月 台湾三義郷文化教育観光連携 7月 軽井沢リゾートテレワーク協会発足
2019(平成31年度)	1月 全国ペットツーリズム連絡協議会より「第4回ペットツーリズム大賞」 最高賞受賞(軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト) 4月 長野県MICE協議会・ヘルスツーリズム協議会発足(構成団体に加入)
(令和元年度)	6月 カナダ観光プロモーション 9月 インバウンドビジョン発表 10月 長野県主催フランス観光機構視察 11月29日 軽井沢観光協会創立70周年記念式典・講演
2020(令和2年度)	6月 新型コロナウイルス感染症予防対策「軽井沢版ガイドライン」作成 (お客様向け・事業者向け) 8月 「One Nagano Enishi “縁” Project ~信州の大地から復活のかけ橋 お陰様の気持ちで人と地域を繋ぐ~」 (観光振興地域協働事業) 10月 軽井沢宿泊プレミアムクーポン券 発行 12月 軽井沢ドッグツーリズム商標登録完了 2月 第21回テレワーク推進賞【テレワーク促進部門賞】受賞(軽井沢リゾートテレワーク協会)
2021(令和3年度)	6月 台湾苗栗縣三義郷と文化教育観光連携覚書締結 8月 軽井沢観光協会 広報誌「グリーン・ブリーズ」No.50発刊



〈One Nagano Enishi “縁” Project〉

軽井沢町長  
藤巻 進



## ♪ 継続は力なり ♪

軽井沢観光協会広報誌「グリーン・ブリーズ」は1996年の創刊から25年、第50号を迎えました。“継続は力なり”、中断のない広報誌の発行は大きな意味と力を持つものと思われまます。携わられたすべての方々に敬意と感謝を申し上げます。

この間、観光協会長は北島祐二氏から荒井宏氏へ、そして、私、藤巻進が引き継ぎ、現在の土屋芳春氏となっています。思い返せば、多くのでき事がありました。特に大きな節目として、第5代荒井会長時の協会独立があります。現在も多くの自治体が観光協会事務局を役所内に置いています。軽井沢観光協会は2003年に旧駅舎記念館内に事務局を開設しました。そして、2015年には、旧軽井沢の観光振興センターに移転。事務局の独立は、会員の自主性を高めることに貢献しました。主要事業であるインバウンドの推進をはじめ、軽井沢ウエディング協会の運営、軽井沢リゾート会議都市推進協議会及び軽井沢リゾートテレワーク協会の発足運営など、近年の活動には目を見張るものがあります。活動範囲は直接的な観光誘客のみならず周辺にも手を伸ばし、その新しい発想と抜群の行動力には頭が下がります。会員の皆さんの熱意と努力はもちろんですが、外部人材の登用も協会事業推進の大きな力になっているように見受けられます。これからも、さらなる発展を期待しております。

軽井沢観光協会顧問  
荻原 宗夫



## ♪ インバウンドの起点 ♪

今は亡き北島祐二会長の時、グリーン・ブリーズ第1号が発刊され25年となった。この25年を顧みると時代の流れの激しさを感じる。当時軽井沢の宿には学生がよく泊まりに来てくれており、夏のバイトも雑誌で募集すればすぐに集まるという時代であった。

その後アウトレットがオープンし、夏の軽井沢は慢性的な渋滞であったと記憶している。それから5年もすると、雑誌オンリーでの集客から、ホームページでの集客へと変化していく。

10年後の人口は1,000万人減少する旨の新聞記事を見て、観光への影響を懸念した。当時、県の観光協会の恵崎君から台湾と一緒にいかないかと誘いがあり同行した。これが軽井沢でのインバウンドの始まりで、こんな訪問で効果があるのか疑問であったが、とにかく誘われるがまま、台湾、香港と続けて行った。この間、リーマンショックがあり、さらにお客様は減少した。しかし、5年も経つとその効果が表れ始めて、行政も次第に支援を拡大してくれた。藤巻町長が観光協会長の時は、軽井沢観光協会独自の営業活動を台湾で行い、台湾にとっての軽井沢は不動のものとなっていた。

今回のコロナですべては水泡に帰ってしまったが、軽井沢は大丈夫と考える。再度外国からお客様を呼び込む努力をしよう。

## Special Interview

# 軽井沢観光協会 土屋会長が語る 軽井沢の観光概念と協会の役割

創刊から25年に渡り発行され続けてきた  
軽井沢観光協会広報誌「グリーン・ブリーズ」が第50号を迎えました。  
軽井沢や観光協会の歴史を振り返りながら、  
今後の観光立町・軽井沢の在り方を、土屋会長にインタビューしました。



一般社団法人  
軽井沢観光協会 会長 土屋 芳春

インタビュアー FM軽井沢 宮尾 博子

## 広報誌「グリーン・ブリーズ」 第50号発刊を迎えて

**宮尾** 軽井沢観光協会の広報誌が第50号を迎えました。タイトルの「グリーン・ブリーズ」は軽井沢らしいネーミングですね。表紙にある軽井沢の観光ビジョン「美しい村」は、軽井沢にゆかりのある堀辰雄の作品からでしょうか。

**土屋** 先々代の荒井会長時代、軽井沢を象徴するイメージから「緑の風＝グリーン・ブリーズ」と名付けたものです。年に2回の発行で、今号で第50号となりました。

観光ビジョン「美しい村」は、軽井沢の自然の豊かさや歴史的リゾートの独自性、軽井沢にゆかりのある堀文学の芸術性を紐解きイメージしたもので、1999年に決定しました。「美しい」という言葉には自然・心・清々しい空気・景観の美しさ、「村」には思いやり・ホスピタリティ・ヒューマンスケールなどの要素が込められています。

## 高原リゾート軽井沢が 形成された歴史的背景

**宮尾** 昨今、軽井沢に魅力を感じる方が増えていますが、高原リゾート軽井沢の形成には長い歴史がありますね。

**土屋** 宿場町が衰退し、1883（明治16）年から実業家・雨宮敬次郎が軽井沢の開発事業を始めました。その時に植林した700万本のカラマツが今の軽井沢の美しい森林景観を作り上げています。その後、偶然に軽井沢を訪れた宣教師A.C.ショーによって1886（明治19）年に避暑地の歴史が始まりました。インフラの整わない都会で暮らす中、彼は軽井沢の高原気候に理想郷を感じたのではないのでしょうか。彼の来軽は、軽井沢がリゾートに変わる転換点だったと思います。

「高原」という言葉を最初に使ったのは島崎藤村とされています。軽井沢の気候は国内でも高原と呼ぶに相応しい、親しまれている場所だと思っています。

## 観光地でありリゾートである 軽井沢ならではの充実したコンテンツ

**宮尾** 軽井沢は観光地であると同時にリゾートでもあるというのが大きな特徴で、観光コンテンツのジャンルも多いですね。

**土屋** 軽井沢はもともと別荘地、避暑地が始まりです。観光地は後付けで、別荘地や避暑地として発展していく中で、軽井沢文化や軽井沢ブランドが築かれ、それらに憧れる人々が軽井沢を選んで観光に訪れるようになったという歴史の系譜があります。観光コンテンツも多く、自然豊かな景勝地・明治期に建てられた素晴らしい建築遺産・ブライダル・食・スポーツ施設・美術館・博物館など充実しています。最近ではテレワークといったビジネスのカテゴリーも増えてきました。



雲場池

**宮尾** 短期宿泊や日帰りで観光される方、静養や長期滞在を楽しむリゾート目的の方など、軽井沢はお客様の層が多岐に渡りますね。

**土屋** 昨年コロナの影響で観光客は大幅に減少しましたが、それ以前は年間約850万人の来軽者を迎える一大観光地でした。「リゾート」という言葉には、「滞在」や「静養」など色々な要素が含まれますが、軽井沢での滞在時間を長くしていただくことで、本来の軽井沢文化や軽井沢の良さを体感していただきたいと考えています。そうした意味からも協会では色々な商品開発を行い、PR活動をしています。

**宮尾** 別荘所有者が作り上げた別荘文化の歴史も大きな視点ですね。昔から交流を深めるコミュニティのようなものがあったのでしょうか。

**土屋** 現在軽井沢には約17,000軒の別荘があります。まだまだ増えている状況を見ると、軽井沢がリゾートとして選ばれている先に、国民全体のライフスタイルの変化がうかがえます。

軽井沢には代表的な5つの別荘コミュニティがあり、歴史的に一番古いのが「軽井沢会」で、「文化協会」「南原会」「追分会」「しらかば会」が有名です。他にも学閥系や地域系など地域や価値観が統一されてグループ化していくのが一般的で、そうしたコミュニティでの交流も軽井沢滞在の意義や魅力につながっているのだと思います。

## 「屋根のない病院」から ウェルネスリゾートへ

**宮尾** 協会では早くから、心身ともに美しい健康的なリゾートスタイルを提供する「ウェルネスリゾート」を提唱していますね。

**土屋** 1999年に観光ビジョンとして「美しい村」を打ち出しましたが、イメージの訴求が難しかったため、軽井沢で昔から言われていた「屋根のない病院」の歴史と「美しい村」を紐解き、今の時代と合わせて「ウェルネスリゾート」を具体化させました。

ウェルネスには気候効果・転地効果・地域特性効果があります。標高1,000mの自然豊かな気候効果、標高0mの首都圏から短時間で1,000mの高地へ移動してくることで五感が刺激される転地効果、加えて霧の発生率が高い霧下気候や樹木が多様であることや、豊かな生態系などの地域特性効果に恵まれた軽井沢は、ウェルネスリゾートに位置づけられます。

こうした環境から、2015年に心身ともに美しい健康的なリゾートスタイルを提供する「ウェルネスリゾート構想」を立ち上げ、2017年に「軽井沢ウェルネス・ツーリズム推進宣言」を採択しました。ウェルネスには、健康を維持するために運動をしたり、精神的な安らぎを求めているという概念があります。最近では働き方にも変化が見られ、企業には

ウェルネスを含めた改革が求められています。環境を整え人材を育てるという企業の在り方が問われているように感じます。

**宮尾** ウェルネス・ツーリズム市場は世界的にも大きな割合を占めるようになってきましたね。

**土屋** グローバルウェルネスサミットの2013年のデータによると、滞在目的の1位に文化・芸術といったカルチャー、2位が食、3位にウェルネスがランクインしています。2013年当時4,390億ドルだった市場性も2017年には6,790億ドルに拡大しています。

健康で長生きしたいというのは人類共通の願いですので、ウェルネスの市場性はますます拡大していく傾向にあると思います。

## リゾート会議の誘客や リゾートテレワークの推進

**宮尾** 軽井沢ではG7やG20などの国際会議が開催されましたが、リゾート会議やビジネス関連の誘客は町などの公的機関と連携した戦略でしょうか。

**土屋** 1986年に軽井沢青年会議所が「リゾート会議都市推進戦略」を提唱しました。中心になったのが若き日の藤巻町長で、2011年町長になってからもマニフェストにリゾート会議都市推進を掲げています。観光協会の中にもMICE担当の委員会があり、観光協会・商工会・旅館組合などの団体で構成された軽井沢リゾート会議都市推進協議会が、G7やG20に代表される国際会議を誘致しました。



町内テレワーク施設



2016 G7 交通大臣会合

住信基礎研究所の故・松岡温彦氏はリゾートオフィスのススめを提唱した先駆者で、リゾートでの働き方を実証し、書物に残し、研究者として活躍しました。軽井沢には昔から二拠点居住、セカンドハウスとしての別荘文化があり、サテライトオフィスやリモートで仕事をするという歴史が息づいていました。それを定義付けたのが松岡氏でした。今やリモートワークが注目され、全国的に各自治体でも動きが加速していますが、軽井沢にはもともとのポテンシャルがあるため、違和感なくビジネスユースを獲得しています。

**宮尾** 軽井沢リゾートテレワーク協会の取り組みも新型コロナの影響で早くから注目されましたね。

**土屋** 最近ではリモートワークやワーケーションなどの働き方改革、生き方改革がブームになっています。気候も含め、軽井沢では付加価値の高い効率的な仕事ができ、魅力的なコミュニティがあるなど環境も整っています。そこで、全国に先駆けて2016年から実証実験を行い、2018年に軽井沢リゾートテレワーク協会を立ち上げました。現在はテレワーク施設が24に増えましたが、民間企業での運営がほとんどのため、マーケティングやマネジメントなど事業化のノウハウが蓄積されており、協会ではこれをブランディングし、よりクオリティの高い情報を発信していこうと活動しています。月に1度、軽井沢テレワークデイズを設けて、多くの方にテレワークを体験していただいています。地域の中での位置付けを知り、コロナ禍のビジネスチャンスに繋げていただければと思っています。

最近ではwork<sup>\*1</sup>とvacation<sup>\*2</sup>を組み合わせたworkationという言葉もありますが、軽井沢ではさらにcommunication<sup>\*3</sup>、education<sup>\*4</sup>など色々な言葉が結び付けられます。軽井沢に滞在する意義が明確になると滞在日数も増え、満足度も高まると考えています。

\*1 work : 働く、\*2 vacation : 休暇、\*3 communication : 交流、\*4 education : 教育



カーリング競技

### “地”から“風”の時代へ 時代を見据えた観光協会の役割とは

**宮尾** 新型コロナの影響で、社会も人々の意識もだいぶ変わりましたね。

**土屋** 働き方改革からテレワーク時代という動きの中にコロナが加わり、さらに流れが加速したと感じています。お金や物質で価値を判断していた“地”の時代から、情報や体験、人脈に重きを置く心、すなわち“風”の時代へと考え方が変わってきているのでしょうか。

新幹線延伸や高速道路の整備により、首都圏や北陸・東海・関西との距離が縮まった今、軽井沢を拠点に移動するハブ的な役割も見られるようになってきました。

**宮尾** 軽井沢リゾート会議都市推進協議会のスローガン「ダボス アспен 軽井沢」という言葉がありますが、これは昔から掲げられてきたものですか。

**土屋** 世界フォーラムが開催されるダボスは、研究機関やスターホテル、一大スキーリゾート、アクティビティなど色々なものが充実するスイスの代表的なリゾートです。スローガンを掲げる上で、抽象的な言葉では分かりにくいいため、具体的にダボス、アメリカの上質なリゾートであるアспенの呼称も加え、想起しやすいようにしました。

**宮尾** 新時代における軽井沢観光協会の役割とは。

**土屋** 観光事業の中心となるのは観光協会ですが、軽井沢は観光立町なので、ただ一般の観光客を迎えるだけでなく、来軽者にここで長く過ごしていただくための環境を整えるということが、町民全体に課せられた責務だと私は思います。

行政は都市計画、商工会は顧客満足度を高める役割、観光協会は誘客を担います。観光は創造産業で、「顧客満足度」「品質管理」をキーワードとする高度な技術を要するものです。時代の流れの中でコンセプトを崩さずに新しいものを作り上げていくのが観光協会の役割で、行政や商工会との三者連携が欠かせません。

軽井沢を訪れるお客様は大きく分けると3層に区分できます。第1に別荘地として始まった歴史を持つ軽井沢ならではの別荘所有者を中心とした層、第2にMICE\*や静養など目的を持って長期滞在される方の層、そして、日帰りや1泊、2泊といった短期で観光を楽しむお客様の層。観光協会はそのそれぞれのマーケットに応じた情報提供を行うことが大きな役割だと認識しています。

近年生まれた「メタ観光」という新しい観光概念があります。観光には色々なツーリズムの形がありますが、個々の観光形態を竹串を使い縦につながり合わせ、位置情報を活用することで、多層的な観光が楽しめるというものです。観光協会がこの縦串の役割を担うことで新しい商品を提供できるのではないかと考えています。



白糸の滝

私自身、生まれも育ちも軽井沢ですが、やはり軽井沢は素晴らしい場所だと感じています。外国人宣教師から始まり、政財界のリーダーたちが別荘を構え、一定のコミュニティを作り上げました。豊かな自然環境の中で他とは違った過ごし方ができる、そんな軽井沢のポテンシャルを伝えていくことが大切です。観光客をただ誘客するだけでなく、明確な目的を持ち訪れる方に選んでいただける活動をしていきたいと考えています。

\*MICE : Meeting 企業等の会議、Incentive Travel 企業等の行う報奨・研修旅行、Convention 国際機関・団体・学会等が行う国際会議、Exhibition/Event 展示会・見本市・イベント

## 軽井沢観光協会 委員会からの活動報告

例年とは異なるコロナ禍での活動となりますが、各委員会が知恵を出し合い、軽井沢の観光新時代を見据えた活動をしています。

### Report 1 未来構想委員会

委員長 尾沼 好博



#### 自主事業と会員拡大を使命とし、 様々な活動をしています

未来構想委員会は荒井宏会長時代、町の協力により自立した事務局を設立し、当委員会は総務委員組織運営を前身とする委員会です。

自主事業と会員拡大が使命であり、軽井沢町の理解と会長の努力で現在に至りますが、最大の財産は前向きで問題意識の高い職員にあります。

会員数は550から減少傾向にありますが、民間会員各位のボランティアな活動が支えです。



町花：サクラソウ

#### ■滝沢副委員長

「軽井沢高原を美しくする会」では来軽の方々を、美しい花でお

もてなしでき、嬉しく思います。ホスピタリティ強化では(福)日本聴導犬協会の募金箱設置活動を通して、環境、命など今失われようとしている様々な問題への足掛かりが示せました。今後は募金箱の拡大と問題解決への活動を進めます。

#### ■坂井幹事

ホスピタリティ講演会を担当し、「上質なおもてなし」と「リゾート軽井沢の環境」の問題を引き続き提起したいと思います。

#### ■中野委員

「軽井沢町の景観美化」を担当しています。

### Report 2 広報委員会

委員長 小林 里恵



#### 楽しむことでより良いものをつくりあげていく チーム広報委員会

大切に受け継がれてきた伝統ある広報委員会ですが、魅せる・伝えるという手段も時代と共に多種多様に変化してきました。今まではパンフレット・マップ等は紙媒体を中心に制作してきましたが、これからはSNS等のデジタル媒体を使った発信方法も強化していきます。今後も素晴らしいチームワークで「魅力ある軽井沢」を広く国内外に伝えることに熱意をもって進めてまいります。

#### ■制作班

- ・好奇心旺盛！委員長 小林里恵
- ・Cool！な編集長 藤倉郁子
- ・頼りになる 佐藤淑人
- ・行動派 細江久美子

- ・癒し系 山本忠
- ・優しい笑顔 竹島達也
- ・冷静沉着 吉住尚人
- ・FM軽井沢担当 林寛之
- ・事務局担当 掛川礼央、川本みゆき

#### Special Thanks！

- ・軽井沢旅館組合 徳道千代子

#### ■事業内容

誘客宣伝物の企画・制作（多言語含む）  
デジタルメディア/HPの企画・運営  
広報誌「グリーン・ブリーズ」発行  
FM軽井沢との連携「美しい村だより・wellnessリゾート軽井沢訴求番組」  
町内・近隣ツアー造成の推進



Report 3 事業委員会

委員長 和貝 たかね



「人と犬が健康で楽しく幸せに  
暮らせる町・軽井沢」をスローガンとして

私が事業委員会の委員長を担当させていただいて、10年が経ちます。事業委員会はハーフマラソンやホリデーウォークなどのイベントの運営協力を主な活動としてきました。そして、7年前には事業委員会の下部組織として、理事以外の会員にもメンバーになっていただく「軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト」を設立いたしました。



ホリデーウォーク

もともと軽井沢には、わんちゃん連れの観光客や別荘の方が多く訪れ、旧軽井沢商店街やショッピングプラザなどでは、まるで品評会の様に珍しい犬種のわんちゃんを多く見かけます。

このプロジェクトは「犬連れの観光客を増やす」事を目指すものではなく、「愛犬家が行きたくなる街を作る」事を目的としています。昨年12月にはプロジェクトのロゴの商標登録が完了いたしました。

今後は、①インスタグラムで写真投稿キャンペーンを実施して軽井沢の魅力の再発見に繋げる ②フェイスブック上に店舗・施設とお客様をつなぐコミュニティを形成する ③毎月ワンワンの日(11日)にclubhouse\*を開催する など、コロナ下においても出来るところから活動を続けて行きます。

\*clubhouse：招待制音声SNSアプリケーション

Report 4 組織強化委員会

委員長 鈴木 健夫



文字通り、観光協会の組織を強くする為に  
日夜努力？する集団です

軽井沢観光協会に組織強化委員会が配置され5年目を迎えました。土屋会長肝入りのこの委員会は、協会の収益事業を実現することをメインテーマに、国内・海外の協会ホームページの運営や管理、12年続いている軽井沢WEB検定の実施、そして軽井沢を素敵な写真で彩る為に集まったメンバーからなる軽井沢写真部との連携と幅広く活動しております。

その各々の部門を担当するスペシャルな理事6名と、頼りになる協会事務局の掛川、川本両名がこの委員会のメンバーです。昨年からのおよそ一年半の間は個性的なこのメンバーの力を発揮できずいたコロナ禍ではありましたが、アフターコロナとなるこれからはこの力を最大限に引き出せる体制を整え

ていくつもりです。

軽井沢WEB検定等の事業は更なるレベルアップをして継続していくことは勿論ですが、コロナ禍によりテレワークやコミュニティにおける軽井沢町のブランド価値が益々高まっていく中で協会収益事業の検討及び実施を加速化していきたいと考えています。具体的には、軽井沢リゾート会議都市推進協議会や軽井沢リゾートテレワーク協会との連携を強化し、20箇所以上あるテレワーク拠点や軽井沢町の様々な施設と協働していきます。軽井沢ならではのチームビルディングやワーケーション等の企画をビルドアップすることにより、軽井沢の新たな顧客の創造を模索していきます。今後のこの委員会を期待してください。

Report 5 誘客企画委員会

委員長 徳永 清久



今まで進めてきたことを元に、  
次の観光戦略を考える

軽井沢町は、1886年に宣教師であるA.C.ショー氏が来軽して以来、避暑地として近代リゾートに発展してまいりました。発展を支えたのは、「交通インフラ」「軽井沢ブランド」です。その土台の上に、スポーツ・芸術文化・ビジネスなどのコンテンツの充実が図られ、結果として冬季オリンピック・G7・G20が開催され、リゾート地としての軽井沢の地位はより一層強固なものとなり成長を続けてまいりました。

そんな中、2020年の新型コロナウイルスの世界的な流行により、世界の観光の流れが止まり観光業界全体が苦境に陥っております。しかし前向きにとらえるならば、今後の観光戦略をじっくり考

えるいい機会とし、活動してまいりたいと思っております。

具体的な活動として①データ分析：BIGデータを活用して、どのような方が軽井沢にいらっしゃっているかを確認し、今後の方向性の参考にしてまいります。②ルートの広がり：軽井沢という「点」ではなく、軽井沢を中心として広がるルートを「面」としてとらえ、エリアとしての魅力を国内外に発信していくことを考えております。

アフターコロナを見据えた、未来につながる国内外の観光戦略を立案し実行してまいります。

Report 6 企画調整室

室長 松葉 和彦



企画調整室の現状と  
これからについて

現在、新型コロナウイルス感染症拡大により、観光立町・軽井沢では経済活動に大きな影響を受けております。軽井沢町では国や県の情報を基にコロナ感染拡大の初期段階から対策を進め、業種別ガイドラインを作成し、周知しております。その中、軽井沢は安心・安全をモットーに協会として努力をしております。

アフターコロナ時代を見据え、今年度各委員会では、新型コロナ対策、会員支援、会員相互連携による商品開発、軽井沢観光ビジョン「美しい村」の推進、ビジネス市場開拓、ホームページ・SNS・DXデジタル媒体などの利用による魅力を訴求し、社会の状況をみながら事業計画を推進してまいります。

5月に開催された総会后、各委員会が開催されており、企画調整室といたしまして委員会に参加させていただき、各委員会の問題点や改善点、また委員会相互の事業計画などの商品開発ができるように調整をしております。



旧軽井沢銀座通り

# 軽井沢観光協会 関連団体からの活動報告

Report  
1

## 軽井沢ウエディング協会

副代表 澤崎 光洋



### 「コロナがもたらした結婚式の型」

軽井沢ウエディングは、土地柄から首都圏を中心とした関東エリアからのお客様が全体の7割近くを占めています。

2020年4月に発令された緊急事態宣言前から、結婚式延期の声が相次いで入ってきました。春や夏に予定していたお客様は秋以降に延期され、夏前から少しずつ戻りかけてきましたが、首都圏を中心に再度感染者が増えたりすると、秋に予定していた人達が再度の延期やキャンセルを考える声も出始めま

した。本来、多くの人達に祝福され、晴れの日を迎えるはずの2人ですが、参列を辞退する人の声、会場側から人数を減らすよう促されたり、2回、3回と延期をすることになるなどの背景から、新郎新婦の気持ちはだんだん萎えてくるのは当然のことです。軽井沢ウエディングは大きな転換期を迎え、アフターコロナで新しいウエディングの形が生まれてくることと思います。

Report  
2

## 軽井沢リゾート会議都市推進協議会

副会長 秋山 貴史



### 「非日常を感じられる軽井沢リゾートMICEを」

現在のコロナ禍で大きなMICEは軽減し、その代わりにネットワークを駆使したハイブリッド型の会議が主流となっている傾向があります。その中で都心からのアクセスと「屋根のない病院（天然のサナトリウム）」と称した標高1,000mのウェルネスリゾート軽井沢として、よりお客様に注目を頂いております。

なお、昨年よりコロナ禍でも安心して会議が開催できるよう、軽井沢リゾート会議都市推進協議会で受入れの準備としてコロナ感染予防対策用パーテー

ションとサーマルカメラを購入し、軽井沢MICE開催の際に貸し出しを致しております。

これから先の軽井沢は、発足以来の目標として研究機関、学術機関、そして国際会議が開かれる都市として東洋のダボスを目指していきます。この地域にはスキーをはじめとするスポーツ、自然体験型のアクティビティ、芸術・美術機関などもご利用いただける環境がそろっております。今後も情報発信を続けていきます。

Report  
3

## 軽井沢リゾートテレワーク協会

理事 森 和成



### 「Workationから「生き方改革」へ」

軽井沢ではWorkationの体験会や実践会など、具体的な取り組みを2014年から行ってきました。コロナ禍でテレワークが推奨され一気に全国に広がりましたが、在宅勤務はかえってストレスが蓄積され、2020年には、その弊害となる事象が多く報道されました。

軽井沢では、現代に必要なソリューションを「働き方改革」ではなく「生き方改革」と捉え、様々な体験・実践機会の創出に挑戦してきました。その経験知からWorkationの定義もただ単にWork×Vacationではなく、

自然あふれる環境下に身を置き（Vacation）、ゆったりと自分をふりかえり（Reflection）、仲間と焚き火を囲いながら語り合い（Communication）、新たな相乗効果を生み出し（Collaboration）、様々な学びを得て（Education）、新たな世界観を広げたり（Revolution）と、より広義で捉えています。我々は、今後も人々がより生き活きと自分らしい人生を歩める社会の実現に向けて、更なる「生き方改革」のソリューション開発に挑戦していきます。

GREEN  
BREEZE

No.50  
Anniversary  
2021年8月発行  
軽井沢観光協会広報誌



◆発行：軽井沢観光協会 ◆発行人：土屋 芳春 ◆編集責任者：小林 里恵  
TEL：0267-41-3850 FAX：0267-41-3851  
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢470-3  
<https://karuizawa-kankokuyokai.jp>